

第23号

川越初雁会



川越初雁会第十三回定期総会のご案内

令和四年度事業報告及び収支決算報告

令和五年度事業計画案及び予算案

日時 令和五年九月十六日(土)午後二時

場所 川越高校図書館二階 セミナー室

総会記念講演 講師・松尾鉄城氏(高十八)

女子栄養大学教授

演題:「川越・入間地区の文人・画人展」

〔石川勝利コレクションより〕の開催計画について

(高十二回の石川勝利氏が生前に収集した、幕末から昭和

前期に活躍した郷土の偉人の作品に光を当てる)

初代初雁会会長 関口一郎氏逝去

川越初雁会初代会長として、会の発足に尽力しました関口一郎さん(高五回)が、令和五年七月十四日、八十九才でお亡くなりになりました。岩堀前会長の弔辞に句読点を追加し抜粋して掲載します。



初代会長関口一郎氏

弔辞

県立川越高等学校 先輩 関口一郎さんのご逝去に際し謹んで惜別の言葉を申し上げます。関口さんは昭和九年七月二日、旧日東村大袋新田、現川越市藤倉に五人兄弟の次男としてお生まれになりました。次男でありながら一郎と命名された御尊父の期待を終生感じ続けられた由にございます。

昭和二十五年四月埼玉県立川越高等学校に入学されました。同二十八年、大学は法曹界に多くの合格者を排出した中央大学法学部に入学しました。そして昭和三十三年四月埼玉県上級職試験に合格し、埼玉県に入庁されました。その後、地方課行政課長、環境部長、総務部長を務めたのち平成五年、土屋知事から指名を受け埼玉県副知事を任命されました。在任中はさいたま副都心のスーパーアリーナ建設などに手腕を発揮される一方多くの人材を育てられました。

埼玉県を退官後は 埼玉高速鉄道社長、全国行政相談員協議会会長などを務めつつ平成十九年四月には瑞宝中綬章を授与されています。一方川越を中心とした地域にあっては、永年親しんで来られた囲碁の普及発展を目指し、友人を募り「川越IGOまち倶楽部」を設立されました。囲碁の世界では最高位とされる、棋聖戦を三度にわたり川越で開催されるほど日本棋院からも熱い視線を注がれました。

また貴方は「農は国家の元」との意識を常にもたれており所沢三富地区雑木林を対象とした「武蔵野の未来を創る会」を自ら組織し、毎年二月に同志とともに落ち葉掃きを行い、その落ち葉は県立川越総合高校の生徒のもとで有機肥料となり、循環型農業への実践を果たしてこられております。

貴方の人生は、御尊父から「一郎」と命名された期待に違わず最後まで努力され現役で家族、地域社会、国家のために尽力された誠に見事なものであります。関口一郎さん、私たちにとてもは名残惜しくも口惜しい気持ちで一杯ですが、今は元気の頃の面影を偲びつつお別れの言葉を述べさせていただきます。安らかに眠り下さい。

川越初雁会第十回春季講演会

サッカークラブを通じた新しい地域経済文化作り

川越からJリーグへ挑戦

講師 COEDO KAWAGOE F.C(株)

中島涼輔氏(高六十二回)

令和五年三月十八日(土)

川越高校セミナー室

講師略歴

富士見市の出身で、三十一才。小学四年時よりサッカーを初めて、2007年に川越高校に入学と同時にサッカー部に入部。早稲田大学政治学部に入部、卒業後リクルートホールディング(株)に入社。そして、2020年にCOEDO KAWAGOE F.C(以下コエド川越FCと表記)を起業して今年で三年目。



中島涼輔氏

本日の講演の「ゴール」といたしましては、一つ目「コエド川越FC」を知って頂くこと、二つ目2030年のJリーグ加盟に向け、クラブの目指す方向性を知って頂くこと、の二点を目指します。特にクラブの事業面での取り組みをお伝えできればと思っております。(講演中のJリーグとはJ3以上のカテゴリー

リーを指します。)

Jリーグの組織図

サッカー界の仕組みは、こちらの図のようにピラミッド状の構造になっております。川高OBで同級生の片山瑛一君は柏レイソルに在籍し、この頂点(J1)にいます。

新規に発足するチームはどんなに資金力があっても、この図の一番底辺の川越市二部リーグよりスタートします。頂点から数えるとJ11に相当します。三年前にここより参入しまして、着実に毎年昇格し、今年度より埼玉県三部リーグで戦う予定でした。ところがシーズン前に、埼玉県一部に所属している加須のチームより合併の提案があり、これを受諾し、一部リーグに参戦することとなりました。埼玉県一部リーグには十二チームあり四位まで入ると上のカテゴリーである関東二部への昇格戦に

参加できます。

この昇格戦は、関東の都六県の代表がトーナメントで戦い、ここで二位までに入ると関東二部に昇格できるといふ仕組みになっております。

何でJリーグを目指しているの？

会社を二人で立ち上げたときに「フットボールを通じて、川越に夢と感動を創出し続け、百年続くクラブへ」という理念を掲げました。以後、選手及び社員全員で、この理念を徹底し

体現しようとして活動しています。具体的には以下の三つの活動の軸があります。当然ながら一つ目はサッカーです。二つ目は事業です。サッカークラブの経営はスポンサー企業からかなりの部分を支えられているのが実情です。クラブの収益はスポンサー、グッズ、チケットが主な財源で

すが、それ以外のものでも収益を生み出そうと画策しています。三つ目はホームタウン活動です。Jリーグはホームタウン制というルールがあります。拠点とする「まち」を定めて活動するということですが、私達は川越を拠点として、川越に住む住人のひとりとして、地域の活動に積極的に参画しています。

コエドブルワリーの朝霧社長とは何のコネクションもなかったのですが、高校の先輩ということだけを頼りにお願いに行きましたら、クラブ設立の趣旨を賛同して頂き、快くトップスポンサーを引き受けて頂きました。会社の役員としまして、2020年に私と共同で会社を創業した有田和生が代表を努めています。彼は私の中学時代の同級生で、居酒屋を経営しています。彼のスポーツ歴は野球です

2023シーズンより 埼玉県1部リーグへ

Saitama east SV

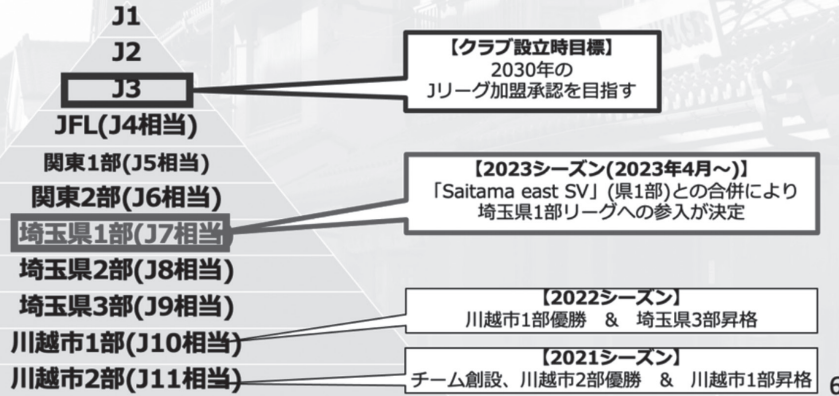


COEDO KAWAGOE F.C

埼玉県加須市からJリーグを目指す「Saitama east SV」(埼玉県1部リーグ所属)は、2023年2月をもってチーム合併し、2023年4月から始まる2023シーズンに「COEDO KAWAGOE F.C」として埼玉県1部リーグ(J7相当)に加入が決定。

埼玉県サッカー協会様からの手厚いサポートがあり本件が実現した。

Jリーグの組織図



が、お互いにスポーツビジネスへの夢が合致して、この会社を起業しました。昨年七月の川越市二部リーグでは、五百名を超える観客が来場してくれました。草

サッカーに毛の生えたようなカテゴリの試合にもかかわらず。
スポンサー企業様の数の推移
Jリーグの大きなクラ

はは大企業がスポンサーについていますので、たとえば赤字を計上してもスポンサーが補填してくれる、という構造になっています。

最近では川越以外の企業様のスポンサーも増えていまして、今後は周辺エリアの営業も増やしていこうと考えています。

会を頂きまして、激励の言葉を頂いております。なお本社事務所を昨年、一番街(元亀屋元町店跡地)に移転しました。

ホームタウン活動について

私達のクラブは巨大なスポンサーがついているわけではないので、日々必死に生きています。設立一年目は六十一社の企業様の支援を得ることができました。一年目は私も有田も給料無しでした。二年目になりました。最終的には百六十四社となりました。川越のためになるなら、スポンサーになられた企業の皆様からは川越愛をひしひしと感じております。

スポンサー企業の業種も多岐にわたっています。今ユニフォーム上のスポンサーが七社となっておりますが、その内の三社が川越高校OBの方が率いている会社です。(株)共同商事(コエドブルワリー)、岩堀建設工業、(株)Relic)

ホームタウン活動とは、地域の課題解決を、サッカークラブを使って行うという活動です。一つ目は、環境に関する事です。基本的に清掃活動が多いのですが、今年岩堀建設工業様と共同で花植えを行いました。二つ目はスポーツに関する事です。昨年は大東中、大東東中でサッカー教室を開催しました。元Jリー

2023年三月現在はお約二百社程の企業様にご支援を頂いている状況となっております。J1のチームの平均スポンサー数は二百十と言われています。スポンサー数ではJ1と肩を並べたことになりました。

特に岩堀建設工業様には、赤心堂病院の前に、クラブのPRとしてのモニュメントの設置をして頂きました。また川越駅構内にJR東日本様の全面バックアップのもと、特設ブース及びオリジナル自販機設置を行っております。

また川越高校OBである明治安田生命保険、根岸秋男会長や、川越市出身である前Jリーグチェアマンの村井満さんにも面会の機会を頂きまして、激励の言葉を頂いております。なお本社事務所を昨年、一番街(元亀屋元町店跡地)に移転しました。

を並べたことになりました。

また川越高校OBである明治安田生命保険、根岸秋男会長や、川越市出身である前Jリーグチェアマンの村井満さんにも面会の機

四つ目が観光です。川



赤心堂病院前のモニュメント

越まつりや各地の夏祭りのイベント等に積極的に参加をして、地域の盛り上げに一役買うことを目指しています。一年目は五十回くらい、二年目は七十一回の

ホームタウン活動を行いました。

サッカークラブを通じた新しい地域経済／文化作り

世の中の大多数のクラブは、収益の大部分をスポンサー収入に頼る状況になりがちであり、時としてこれは大きな問題を生じる事になります。よってスポンサー売上に依存する事業構造を変えていく必要があります。コエド川越FCは、

地域経済に貢献し、地域経済に食い込んでいくことで、スポーツを軸とした街の「インフラ産業」になる、単なる娯楽産業から脱却して、サステナブルな事業体となることを目指していきます。

川越を含め、今後地方都市が直面する問題として、人口減少があげられます。2060年には川越市の人口は三十五万人から二十七万人へ減少すると予測されており

人口減への問題解決には、川越という街を更に魅力的な街にしなければなら

ないという必要性が生じています。コエド川越FCは、観光+αで街の魅力をもっと増やすことが使命だと任じています。

2030年をめどに地域通貨構想

前述の通り、スポーツを通じて、街のインフラ産業になっていきたい、と思っています。具体的には、2030年をめぐりに街の地域通貨をつくりたいと考えています。

先行している実例としては、飛騨地方で流通している「さるほほコイン」があげられます。今までの地域通貨が、紙をベースにしたものでありましたが、想定している形は、スマホアプリによるQRコード決済方式で、利用者がチャージする際にポイントが付与される仕組みです。スポンサー

企業様をはじめ、地域の企業店舗もこの枠組みに入って頂き、地域通貨の流通によって地域内の経済循環が活性化され、域内の消費が伸びるという効果が期待できます。また地域外への経済流出も抑えることができ、公共料金等の支払いにも利用可能です。



サッカー企業さんは二百社を超えています。二つ目は、サッカークラブの持つ公共性です。J2やJ3のクラブでも、売上規模は二億〜三億程度の間、ゆるゆる中小企業の域を出ません。ただし知名度は抜群であり、地域の象徴としての公共性は群を抜きます。

三つ目には、抜群の集客力です。地域通貨への誘導を容易とする（リアルとネットの融合）ことができると考えます。

それでは何でサッカークラブがこれをやる必要があるのか？ということがあります。大きく三つの理由があります。ひとつは、業種を問わない関係者の多さです。サッカークラブは、多様な数多くのスポンサー企業の接点になりうると思っています。立ち上げ二年半のクラブですが、パート

雁の記

川越散策日記

荒牧 澄多 (高二七回)

新河岸川を探る その1 余話その2

今回も、八幡橋からはじまった余話です。なかなか川を下ることができません。

前回、八幡橋の銘板にかかれた方々をご紹介します。そのお一人、恩田さんが札ノ辻の北の方にお住まいだったと、とある先輩より伺いました。

別件を調べるために見ていた川越市立中央図書館蔵の「川越市動態図鑑一九六六年版」に、お名前



恩田宅その後 陣屋(昭和五五年)

その1 余話その2

を見つけました。この図鑑は、現在広く刊行されているゼンリンの住宅地図と同様に、居住者氏名を地図上に記したものです。

札ノ辻のやや北側、弁天横丁から北が喜多町になりますが、そこから四軒目に「恩田得也」のお名前が記されています。

ここには今、法律事務所などが入る五階建ての喜多町ビルが建っています。じつはこの場所、私が昔調べたところちよつとした由緒のある土地ではないかと思定していました。中世の東明寺大門の跡です。喜多町も、昔は東明寺町、東明寺門前町といわれていたと、江戸時代の地誌に書かれています。

寛延二年(一七四九)に

亡くなった板倉善左衛門良矩の未成の地誌本「川越索麴」によると、「東明寺大門旧地 北町 今東側角や六郎左エ門屋敷分也 但し道ハなし 公儀水帳にも道の分の由 依て此所今借屋なれ共 丁並の屋ねの高サより三四尺も低し 遠慮の心ならん いか様屋ね並を見渡に 外は皆同じ高サなるに この屋ね斗り際立て低し(新編埼玉県史資料編一〇 近世一地誌)」と記されています。

板倉良矩は川越藩主秋元但馬守涼朝(老中 藩主在任一七四二〜一七六七)の家臣で、一五〇石取、今の新富町に屋敷を構えていたようです。

なぜ恩田家と六郎左衛門が一致するのか。川越市立中央図書館の蔵書に享保六年(一七二一)と年号の入った「喜多町居屋敷水帳写」が残っています。ちなみに水帳とは検地帳のこと

で、土地の所有者と面積などが記されています。ここに「六郎左エ門」の名が出てきます。この六郎左エ門と川越素麴の角や六郎左エ門が、同じ人物または襲名したと考えたのです。



推定六郎左エ門屋敷 駐車場と喜多町ビル 右奥が札ノ辻

六郎左エ門の屋敷地の広さは、間口七間四尺(約十三・九m)、奥行き十六間(約二八・九m)、面積一反一畝十二歩(三四二坪、約一一三九・六m²)。かなり広いお屋敷ですね。この間口なら、通りに面して借家が建っていてもおかしくありません。

この水帳に記されてい

る名前を現代の地図に当てはめていくと、ちょうど恩田さんの住んでいた現在の喜多町ビルとその北側のパークキングが比定されました。恩田さんがいつごろまでいらっしやったかはわかりませんが、昭和五〇年代は、陣屋という古い町家を改修した料亭になっていました。その後、陣屋は倒産し、現在のビルに建て替わります。

このビルの県道を挟んだ西側正面、ファミリーマートと田口レディーススクリーンの間に小路があります。この小路を入っていくと、川越の町中では数少ないL字型の曲がりになっています。ちょうど喜多町の西を囲む境のように。この道は、中世東明寺の境だったのでしょうか。東側の恩田家とともに、中世東明寺の大門を形成していたことでしょう。

春季散策会報告

原 宗康 (高四十一回)

二〇二三年五月、これまでの新型コロナウイルス感染症の五類移行を受けて、三年にわたる長かったコロナ対応に一つ区切りをつける形となり、これまでの日常が戻ってきました。

そうしたなか六月十日、川越初雁会では春季散策会として、港区高輪にある泉岳寺周辺を歩きました。

一八名の参加者一行は、高輪を目指して川越駅を出発し、三年前に開業したJR高輪ゲートウェイ駅にて下車しました。駅一帯は約二〇ヘクタールある旧田町車両センターの跡地を利用し、併せて周辺の再開発が行われているエリアで、現在も多くの商業施設等の建設作業が行われています。まずは、そこから歩いて数分のところにある、高輪大木戸を訪れました。江戸

時代には各町ごとに木戸が設けられ、番を置き警護させていました。大木戸は各街道の江戸の入り口にあたる場所に設けられた門で、



泉岳寺門前にて

高輪大木戸は東海道に設けられて、今でもこちらでその石垣を見ることができます。先の駅名はまさにこの「ゲート」にちなんで名づけられたものです。そこから一行は移動し、

目的地である泉岳寺を訪れました。

泉岳寺は、江戸時代前期、徳川家康が幼少時代に身を寄せた今川義元を弔うために創建されました。元々は桜田門の近くにありましたが、大火によって焼失。江戸時代中期、現在の高輪の地に再建されました。泉岳寺は、赤穂浪士ゆかりの寺院としても有名で、境内には、大石内蔵助義雄の銅像があるほか、吉良上野介を討った後、大石ら赤穂浪士が切腹してこの地に埋葬されたことに伴った赤穂浪士の墓地があります。

一行はお線香を購入し、お参りを行いました。こちらにはいわゆる四十七士の他に、本人は討ち入りを熱望したもの、周囲の反対で討ち入り前に死亡した萱野三平の供養墓もあります。一行は、四十七士それぞれに思いを馳せ、手を合わせ参りました。

その後境内において当日

ベスグロ賞

参加された、高十八回松尾

東コース 馬場 弘氏

さんに、赤穂浪士と川越と

中コース 斉藤良雄氏

のつながりについてお話を

今回のコンペも二十二回

頂き、意外なつながりを発

者を平均年齢も七十代後半

見することができました。

となりました。まだまだ皆

見学を終えて宴席を設けま

さん元気一杯のプレーを展

した。久しぶりに顔を合わ

開しております。また、少

せる方や、初めて参加され

しずつではあります。新

たの方との交流を深めるこ

しい仲間の参加もいただ

とができました。

ております。それぞれの年

ゴルフ同好会

梶田 進一 (高二十回)

令和五年三月二三日

場所 川越カントリーク

ラブ

あいにくの雨模様の中で

スタートとなったコンペで

した。コロナの心配も徐々

に収まり、三十六名の参加

をいただきました。成績の

結果は以下の通りです。

優勝 木島 宣之氏

準優勝 田中 栄氏

共に (高二十五)

三位 伊東 通夫氏

(高二十)

ベスグロ賞

東コース 馬場 弘氏

中コース 斉藤良雄氏

今回のコンペも二十二回

者を平均年齢も七十代後半

となりました。まだまだ皆

さん元気一杯のプレーを展

開しております。また、少

しずつではあります。新

しい仲間の参加もいただ

ております。それぞれの年

代ごとにお声がけをいた

き一層のゴルフ部の充実、

発展を目指していきたいと

思います。

事務局からのお願い

年会費二千円未納の方は、

お早めに納入をお願いいた

します。振込時に卒業回と

氏名の入力をお願いします。

発行人

会長 金子 憲二

事務局 川越 市中 台南

二丁目十三の十

題字 吉沢翠亭義和

印刷 (株)櫻井印刷所